



「ふるさと発見!大交流会 in Iwate 2018」を開催します

12月15日(土)に滝沢市の岩手産業文化センター(アピオ)で「ふるさと発見!大交流会 in Iwate 2018」を開催します。「学生主体」を掲げている本イベントでは、現在、学生実行委員会が出展企業への事前取材やホームページ、ポスター制作などの



広報関係をはじめ、当日の進行計画作成などの準備に取り組んでいます。

出展企業への事前取材については、インターンシップを受け入れている県内企業のうち取材希望があった47社を学生が訪問させて頂き、事業内容や地域との関わり、将来の展望等についてお話を伺いました。企業の方の思いに直接触れ、学生たちは真剣な面持ちでペンを走らせていました。その内容は来場者配付用冊子やホームページに掲載予定であり、今、編集作業を着々と進めています。

学生実行委員から一言

学生実行委員長

新屋 紗穂
岩手県立大学3年

学生実行委員会では9月末までに47社の企業へ事前取材に伺いました。実際に訪問したことで社員の方々の人柄や職場の空気感を感じることができ、ネット上の情報だけで企業を理解するのはもったいないと思いました。

企業ごとに違う魅力を持っていて、その中でどれが自分に合うのか、というのはやはり体感して確かめることが大事だと感じました。

イベント当日についても、プログラムを見直したり、参加者受付や人気ブース投票をデジタル化したりなど、去年よりも良いものにして取り組んでいます。是非お越しください!



地域に関する学びについて

COC+参加校では地域に関する様々な学びが展開されています。

今回は、岩手大学の「地域課題演習」と岩手県立大学の「いわて創造学習Ⅰ、Ⅱ」について紹介します。

岩手大学「地域課題演習」

平成30年度開講の「地域課題演習」15クラスのうち、前期に集中講義として開講された2クラスについてご紹介します。

「地域課題演習E：平泉の世界」では、8世紀の蝦夷社会の根源を探り、江戸時代の人々にとっての平泉とは何かを問い、発掘から中世都市平泉の姿にアプローチし、平泉の人々がどのように暮らし、人生を送っていたかを明らかにするといった「歴史学」「考古学」「民俗学」の幅広い学問の視野からの講義に加え、グループワークやディスカッションなどを通して平泉の基本知識を深めたのち、現地見学を行い、中尊寺・毛越寺・無量光院跡・柳之御所跡でグループワークの調査内容について発表しました。

「地域課題演習C：火山との共生」では、火山防災、火山周辺の自然環境、温泉や地熱エネルギーなどを多面的な観点から理解するため、火山の基礎として「火山噴火とは」、「岩手山の火山活動史、火山噴火災害事例の紹介」、「火山の監視と防災情報」、「岩手山の火山活動と防災対策」について学習したのち、松川地熱発電所、イーハートブ火山局、砂防堰堤、焼走り溶岩、岩手山馬返し登山道入り口火山灰露頭の現地視察研修を行いました。グループワークを通して、火山との共生を図っていく上での課題とその解決策について提言としてまとめました。

2クラスともに、現地での研修や、学部や専門の違う学生との議論を通して、学習の成果を印象深く実感できたという感想が多くみられました。

岩手県立大学「いわて創造学習Ⅰ・Ⅱ」

「いわて創造学習Ⅰ・Ⅱ」は学生がいくつかのコースにわかれて県内各地に赴き、概ね1泊2日のフィールドワークを通して地域について学ぶ授業です。それぞれの地域の現状と課題にじかに触れ、その解決方法を考察することにより、学生の主体的・能動的な「学び」のきっかけを作ります。

本科目の特徴は学生自らがフィールドワークの企画と実施を行うコースを設置していること。地域活動の経験のある上級生が「いわて創造学習Ⅱ」の授業の中で「いわて創造学習Ⅰ」のフィールドワークのプログラムを企画・実施し、教職員やコーディネーターがサポートする体制をとっています。

平成25～27年度に実施した「いわて創造学習」の前身である「地域創造学習プログラム」(課外の宿泊型学習プログラム)とあわせるとこれまでに23市町村を訪問。平成30年度までに延べ580名を超える学生が参加しています。

実際に地域の方々の声を聞き、仲間と意見を交わすことで、積極的な活動姿勢が身につく、学びに対する意欲が高まります。

これまでの訪問地域



自治体バスツアーについて

8月23日(木)久慈市、30日(木)二戸地域、9月3日(月)遠野市、14日(金)一関市、19日(水)奥州市の各地で、自治体・企業等の全面的な協力により、岩手県内事業所見学バスツアーを実施しました。

このツアーは、学生が地域企業について知り、地元定着の促進につなげることを目的に企画・実施しているもので、岩手大学生52名、岩手県立大学生5名(ともに延べ数)が参加し、一回につき3~5か所の事業所を回り、事業所の見学やそこで働く方々との交流などを通じ、地域にあっても優れた企業が存在するという認識を深めました。

参加者からは、「自分の出身地に近く、居心地が良いと感じ

た。ほとんど訪れたことはなく、企業なども知らなかったのが今回参加してよかった。」(二戸地域参加者)、「あまり馴染みのない地域だったが、世界でも活躍している企業や、地域に密着して仕事をしている事業所があることを知り、将来の就職先の候補が広がった。」(一関市参加者)などの感想が寄せられました。



地域志向型インターンシップについて

岩泉町まるごと営業本部
まるごとコネクター

穴田 光宏

岩手県岩泉町の岩泉型インターンシップは受入事業所や岩手県内の大学のご理解を得て、2016年8月に1回目を行いました。しかしその終了直後、岩泉町は台風10号の直撃を受け、受入事業所も含め、大きな被害を受けました。それでも多くの方のご支援、ご協力を頂き(インターンシップに参加した学生もボランティアに来てくれました)、今年の8月には3回目を行うことができました。

岩泉型インターンシップは「地域で働くことは、地域で暮らすこと」をテーマとして、働くことだけでなく、暮らすこと



も考えるキャリア教育を目標としています。

昨今よく聞く「働き方改革」は長時間労働の削減などが掲げられていますが、裏を返せば労働時間以外の時間、つまりは「暮らす」時間の充実でもあります。岩泉町という過疎地において、様々な人々が働き、暮らしている姿を伝えることにより、大学生の皆さんが将来の選択肢の一つとして、地方で働き、暮らしていく事を考えてもらえればと思っています。

将来、参加者の中から地方を盛り上げていく人材が出てくれば、これほど嬉しいことはありません。

いわてキボウスター開拓塾の活動状況について

いわてキボウスター開拓塾第4期最終報告会を8月31日(金)、岩手大学農学部附属農業資料館において開催しました。今期の活動は、第3期から継続参加した学生がリーダーとなって、ものづくり、農業、地域おこし、マーケティングなど、彼らがこれまで取り組んできたテーマに賛同する他の学生とチームを組み、メンバー全員でビジネスプランをさらに発展させていくスタイルをベースに展開しました。

チームワークでビジネスプランの具体性をより高めていくことに加えて、リーダーの役割を



通してチームマネジメントを学ぶという今までにない難しい課題に挑んだ今期の学生たち。当日は約50人の参加者を前に、様々な面で苦心を重ねながら形にした取り組み成果について、各チームが思い思いのプレゼンテーションを展開しました。

第5期は11月3日(土)からスタートします。第4期までの修了生で引き続き参加する学生もあり、継続した活動によりこれまでの学びがさらに深化していくことが期待されます。



参加 学生の声

大和一陽
盛岡大学3年

「起業について学びたいなら絶対に入るべきだよ!」と友人に誘われ、いわてキボウスター開拓塾への参加を決めました。その動機は「面白そうだったから」というのが本

音で、「何か譲れない信念や強い思いがあった」という訳ではありませんでした。

しかし、第4期の活動を続けていくにつれて、自分の人生をかけてやりたいと思えることが少し見えてきました。来るべき第5期の活動では、その見えかけたイメージを具体的な形にしたいと思っています。

期間中のチーム活動で多くのことを学びました。事業計画に求められるシビアさ、

チームとして効率的な連携を取ることの難しさ、必要とされる情報を得る大変さ、想いを伝える事の難しさなどです。

また失敗から学ぶこともありました。一番の失敗かと思えたのは、擬似ベンチャーの形態で活動しているのに、塾長の指導に頼り、自分達で思考することを止めてしまった時期があったことです。叱咤激励を頂き、気持ち新たに持ち直しましたが、来期では最後まで自分自身の力で駆け抜きたいと思います。